

**9-1 サイエンスマップ(Trajectory 表示)とは**

---

各時点で得られたサイエンスマップを研究領域レベルで接続し、その時系列変化をみることで、科学研究の発展のようすを記述することが可能となる。ここでは、研究領域レベルで時系列変化を示したマップを、科学研究の発展の軌跡(Trajectory)を示すという意味で、サイエンスマップ(Trajectory 表示)と呼ぶ。

本 Appendix では、サイエンスマップ(Trajectory 表示)の作成方法を示す。サイエンスマップ(Trajectory 表示)については、サイエンスマップ専用ページにて公表している。

**9-2 サイエンスマップ(Trajectory 表示)の作成方法**

---

サイエンスマップ(Trajectory 表示)は以下の手順によって作成した。

**① 異なる時点間における研究領域間のコアペーパーの共通度の計算**

まず、異なる時点間における研究領域間のコアペーパーの共通度を求めた。具体的には、サイエンスマップ 2008 と 2010、サイエンスマップ 2010 と 2012、サイエンスマップ 2012 と 2014、サイエンスマップ 2014 と 2016 の研究領域間の共通度を求めた。サイエンスマップ 2008 と 2010 を対象とした計算の場合、サイエンスマップ 2008 の 647 研究領域とサイエンスマップ 2010 の 765 研究領域の全てのペアについて共通度を求めた。共通度は次の計算式で計算した。

$$\text{共通度}(YearA.i; YearB.j) = M(YearA.i; YearB.j) / \sqrt{M(YearA.i) \times M(YearB.j)}$$

ここで、 $M(YearA.i; YearB.j)$  は Year A の研究領域  $i$  と Year B の研究領域  $j$  で共通なコアペーパー数、 $M(YearA.i)$  は Year A の研究領域  $i$  のコアペーパー数、 $M(YearB.j)$  は Year B の研究領域  $j$  のコアペーパー数である。

**② 共通度を用いた研究領域のクラスタリング**

Single link clusteringを用いて、0より大きい共通度で結ばれている研究領域のクラスタリングを行った。クラスタリングによって得られる研究領域の各グループを、本報告書では Stream と呼ぶ。各 Stream に入る最大の研究領域数は 75 とした(各年平均 15 研究領域以内を想定)。Stream に入る研究領域が 75 以上となる場合は、共通度の閾値を徐々に増加させることで、研究領域数が 74 以下の Stream に分割した。Stream に含まれる研究領域の最小値は 1、最大値は 75 である。

